



R.I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2219号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210

会長 千葉 慎二 幹事 三田 明宏



広重版画より 三島 朝霧

第2289回例会

2020.10.1晴

司会 杉崎亮慈君

国歌斉唱 四つのテスト

ロタリーの目的

ロタリーソング 「奉仕の理想」

会長挨拶 会長 千葉慎二君

『安全をつなげて広げて 事故ゼロへ』のスローガンの下、先月21日から昨日まで、秋の全国交通安全運動が開催されました。皆様の中にも街頭での呼びかけ活動に奉仕された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

毎日毎日運転していると自動車の運転も、毎日の歯磨きや着替えのような日常の無意識で些細な行動の如く感じられてしまいます。しかし、(元自動車屋が言うのも何ですが、)以前にもお話した通り、自動車は『人を殺せる凶器』です。その為と同じ過失による傷害・致死罪でも、自動車運転による過失は『重大(大な)過失』としてより重い刑罰が科されます。携帯電話を使用しながら運転など決してないよう心しましょう。

嬉しい話を一つ。先日、信号のない横断歩道を渡ろうとする人がいる時に一旦停止する比率を県別に集計した資料を見ました。違反は2点減、反則金9千円。2019年、JAFのデータによると、全国平均が17.1%。6台に1台しか止まらない計算です。しかしこれでもその前3年間で7~8%台だったことを考えると、だいぶ良くなってきているようです。

ベスト3は、長野県(68.6%)、そして堂々の2位が静岡県(52.8%)、兵庫県(43.2%)。ワースト3は、三重県(3.4%)、青森県(4.4%)、京都府(5.0%)。ワーストの府県では20台、30台に一台しか止まらないのに対して、静岡県では半分以上の車が止まります。誇らしいではありませんか。

そうやって止まってあげても、当たり前のように悠然とゆっくり歩

いたり、中にはスマホを操作しながらノロノロ渡る人に出くわすと思わずクラクションを鳴らしてしまいたくなります。鳴らしませんけど。逆に頭を下げながら小走りに渡っていく人に出くわすと嬉しくなります。それが子供たちだったりすると、その子たちだけでなく、そのように躰をされた親御さんにまでこちらがお礼を言いたくなってしまいます。ぜひ、皆さんも横断歩道では飛び切りの笑顔で止まってくれたドライバーにお礼をしましょう!

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 唐丹さん(米山奨学生)
鈴木和憲君(カウンセラー・沼津西RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	47/50	94.00%	48/50	96.00%
今回	37/45	82.22%	会員総数	51名

欠席者 秋元君、桐部君、窪田君、栗原君、杉山君、須田君、藤江君、和田君

幹事報告

幹事 三田明宏君

- 10月行事予定
 - ①8日(木) 呉竹 夜間例会 卓話: 桐部 都宏君
 - ②22日(木) 例会場・例会時間・内容変更 呉竹 12:30例会となります。卓話: 桃瀬 弘明君
- 11月行事予定
 - ①5日(木) 呉竹 臨時総会 卓話 宇江喜敦司君
 - ②12日(木) 呉竹 夜間例会
卓話 ロータリー財団委員長(フォーラム) 柴崎 恵子君
 - ③26日(木) 呉竹 卓話 栗原 達治君

2020~2021年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

ロータリーは、機会の扉を開く

理事会

①10月18日(日)見晴フェスティバルの中止を受け、当クラブより担当(職業・社会奉仕委員会)から清涼飲料水を見晴学園へ届けました。

②当クラブ(千葉会長)に志田ガバナーよりガバナー公式訪問の御礼が送られております。

③10月24日(土)13時~15時に4クラブ合同による、ポリオ撲滅活動募金を開催します。つきましては、10月22日(木)に会員全員に募金をさせていただきます。(承認済み)

担当(職業・社会奉仕委員会)

卓話

私の留学生活

米山奨学生 唐丹さん



2013年10月、およそ七年前に中国の湖南省から日本に参りました。現在は三島にある日本大学国際関係学部にて勉強しております。卒業後、中国で通訳者か日本語の先生になりたいと思います。長年日本語を勉強日本で生活してきたため、将来はぜひこの語学力を発揮し、日本の文化を中国の皆さんに伝えていきたいと思っております。

日本語を学び始めたきっかけは、中学生の時にある日本語の先生は彼女が所在する高校を紹介するために、うちの学校に来て、「未来へ」という日本語の歌を歌ってくださいました。意味が分からなくても、日本語はすごく美しい言葉と感じ、日本語への興味が湧いてきて、高校に入ってから日本語を学び始めました。高校を卒業し、もっと深く日本語を勉強したい、もっと広い世界を見てみたい、という気持ちで日本へ留学に参りました。

実際に来たら、日本は私の想像以上に美しく、生活しやすい国です。日本はとても人情味があり、特に体が不自由な方にとっては非常に生活しやすい所です。最初日本に来た時はよく障害者の方を見かけるので、日本の障害者の方が多いと感じました。しかし長年をわたると、日本の障害者の方が多いわけではなく、日本が障害者の方が気軽にかけられる環境が整っているからこそ、障害者の方々が出かけていると気づきました。

今まで、中国と日本で生活してきて、一つ残念に思うことがあります。それはメディアの偏向報道です。中国も日本もメディアでお互いの国について、偏った報道が多数存在します。両国の人々は長い間でそのような報道を見ると、どうしてもお互いに好感も持ちづらいです。悪い事だけではなく、いい事もっと中国と日本で報道されたら、中国と日本の人々もお互いの事をより理解できるではないでしょうか。

私は去年の4月から、ロータリー米山奨学生に選ばれ、この一年半で色々な事を体験し、様々なものを収穫しています。お金よりも大事なものは日本の文化と知識、人や環境に対する優しい心の勉強です。未来の人生は、感謝の気持ちを込め、ロータリークラブの皆様みたいな優しく優秀な人間になりたいと思っています。去年は充実して有意義な一年間を送ったが、今年は新型コロナウイルスの影響で世界多くの人々が苦しんでおり、米山奨学会の活動も多数中止になっています。非常に残念に思っており、一刻も早くコロナが終息することを願っております。

(週報担当:森藤 賢)

ROTARY NEWS

TIME』誌が選ぶ「世界で最も影響力のある100人」にロータリアンのツンジ・フンショ氏

ロータリーのナイジェリア・ポリオプラス委員長であるツンジ・フンショ氏が、『TIME』誌の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれ、世界で活躍する先駆者、アーティスト、リーダー、著名人、巨匠たちとともにリスト入りしました。『TIME』誌は9月22日(米国時間)、米テレビ局ABCの番組で2020年の100人を発表。アフリカ地域での野生型ポリオの根絶においてロータリー会員やパートナー団体と協力し、重要なリーダー的役割を果たしたフンショ氏の功績を称えました。

Lekkiロータリークラブ(ナイジェリア)に所属するロータリアン歴35年のフンショ氏は、第9110地区パストガバナーであり、インターナショナル・ポリオプラス委員会のメンバーです。心臓専門医である同氏は、ロンドンの王立外科医師会のフェローでもあり、妻のアイシャさんとともにナイジェリアのラゴス在住し、4人の子どもと5人の孫がいます。

2013年以来ナイジェリア・ポリオプラス委員長を務め、同国でのポリオ根絶活動の先頭に立ってきたフンショ氏は、同国のロータリアンたちと共に、ポリオ予防接種の重要性に対する認識を高め、政府や著名人に支援を呼びかけ、ロータリーとポリオ根絶活動における声となってきました。世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)のパートナー団体である世界保健機関(WHO)、UNICEF(国連児童基金)、米国疾病対策センター(CDC)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gaviワクチンアライアンスとも連携しています。

去る8月25日、アフリカ地域での野生型ポリオ根絶が宣言され、歴史的な快挙となりました。これは、世界人口の90%以上を占めるWHOの6地域のうち、5地域で野生型ポリオウイルスが根絶されたことを意味します。アフガニスタンとパキスタンでは、現在も野生型ウイルスによるポリオの感染が続いています。

アフリカ地域での快挙は、世界からポリオを根絶するという目標に向けた大きな一歩です。フンショ氏は、この達成について『TIME』誌に次のように語っています:「ナイジェリアでのポリオ根絶活動は数々の困難に突き当たりましたが、根絶が実現する日が必ず来ると信じてやみませんでした。状況が後退するたびに、ロータリーとパートナー団体が解決策を見出し、弱い立場にある子どもたちにワクチンを投与する戦略を立ててきたのです」「確信をもって言えることは、ナイジェリアで野生型ポリオウイルスを根絶できるなら、どの国でも根絶が可能だということです」

三島西RCテーマ

ホップ、ステップ
新たな飛躍に向けて足下を見つめてみよう